

理事長挨拶

北京シンポジウムの開会にあたり独立行政法人科学技術振興機構を代表してご挨拶を申し上げます。

先ずは、先日、中国が「神舟5号」による有人宇宙飛行に成功されましたことに対し、心よりお祝いを申し上げます。これは、中国の科学技術の水準の高さを示すものであり、関係各位の長年に亘るご努力に敬意を表したいと存じます。

また、本シンポジウムの開催にあたり、ご協力を頂きました中国科学技術部、中国科学院、国家自然科学基金委員会、中国科学技術協会、日本文部科学省を始めとする関係機関及びここにご参列の日中の関係者の方々に、この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。

科学技術振興機構では、中国との協力を最重点と考え、その拠点とするため、中国科学技術部を始め日中の関係者の一方ならぬご尽力を頂きまして、昨年8月に北京事務所を開設することが出来ました。

当機構と致しましては、同事務所が日中間の科学技術協力の橋渡しとして機能していくよう努力して参る所存でございますので、皆様の更なるご支援ご指導を頂戴したくこの場を持ちましてお願い申し上げる次第であります。

当機構では日中の協力のあり方について強い関心を持って検討を続けて参りました。日中間においては科学技術の幅広い分野における協力の発展が望まれますが、中でも環境の分野は、日本、中国を含め人類共通の課題であり、隣り合う日中両国が協力することにより有意義な成果が期待されることから、特に重要な協力分野であると考えられます。

当機構と致しましては、中国の関係機関と連携して、今年度より「環境保全及び環境低負荷型社会の構築のための科学技術」の分野において日中間の協力を推進する事業を開始したいと考えております。このため、今回のシンポジウムにおきましては、日中の科学技術協力をテーマとしておりますが、特に、「科学技術と環境」を具体的な発表テーマとして取り上げております。

今回のシンポジウムの発表内容は、お配りしました予稿集のプログラムをご覧頂きますとお分かりになると思いますが、基調講演、科学技術政策動向の講演、日中協力の個別事例の報告、パネルディスカッションなど、様々なものを予定しております。それらはいずれも今後の日中の科学技術協力、特に、環境分野の協力の推進に資すると思われ重要なた材を取り上げております。

当機構としましては、このシンポジウムを一つの契機として、科学技術の分野における日中間の幅広い協力に貢献出来ますよう全力で取り組んで参る所存でございます。

当機構のこのような取り組みに対する日中間の関係者の絶大なるご協力をお願いするとともに、日中の科学技術協力の今後の大いなる発展を祈念しまして、私からのご挨拶を終わらせて頂きます。
ご静聴有り難うございました。